



「ごみ」を捨てること・「ごみ」を拾うこと



秋まただただ中です。学校の周りの木々も秋色に色づきつつあります。

2月にお話しした「そうじ」の第2弾です。実話にもとづいた小説のお話です。

主人公圭介が公園でごみ拾いをしている老人に何か違和感を感じ声をかけます。

「なぜ、毎日そうじをしておられるんですか」

老人の答えは「そうじをすると得をする」 だったそうです。

「どんな得ですか？」 と突っ込むと

「ごみを拾った人だけがわかること」と言うだけ。

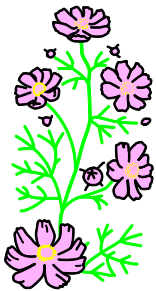
それから圭介と老人の交流が始まります。

しばらくたって、老人は圭介にこんな話をします。

「ごみをひとつ捨てる と 大切な何かをひとつ捨てている」

「ごみをひとつ拾う と 大切な何かをひとつ拾っている」

その話を聞いた主人公圭介の人生が少しずつ少しずつ変わっていくという、ストーリーです。



学校だより 6月号に「魔法の日めくり」のコメント欄が素敵です」という紹介をいたしました。

その17日目にありました。「落ちてるゴミを拾いましょう！」です。そのコメント欄には

「誰も見ていなくても、勇気を持って恥ずかしがらずに自分の意思を貫いて行動に移す。

これが習慣化されると自尊心が芽生え、自分に自信が持ていろいろなことをやってみようと挑戦できるようになります」…とのこと。

大切なものって何かのヒントになりそうですね。

私たち大人も子どもも何かあわただしい中で、つい損か得か、面倒か面倒でないか、効率がよいか否か、で行動し、

「大切な何かをひとつ捨てながら…」 日々過ごすことがあるように思います。

「大切な何かをひとつ拾う」 ことを一日に一度でもやっていけたらなとも思います。

大人が子どもたちに「大切な何かをひとつ拾う」背中をみせていけたらなと思います。何事もまず自分！ 家ではごみを散らかして家内に指導？をうけていますので、せめて学校周辺では「ごみ拾い」をがんばろうと思います。

季節が変わり朝夕はすっかり冷えてきます。皆様、晩秋の体調管理にお努めくださいませ。

校長 藤永靖彦